



R6.11.5

令和6年度 朝日中学校 学校だより

# だのっこ

鶴岡市立朝日中学校

TEL:53-2092

Fax:53-2091

Mail⇒



## 10年後の「自分」にできることから 10年後は「こうありたい」へ

～10/28 地域語り合い～①



28日(月)の午後、感性教育講話として「地域語り合い」を行いました。

25日(金)に引き続きのご案内でしたが、保護者の皆様にも大勢ご参加いただき、東北公益文科大学大学院の授業を受講している方々をはじめ、朝日庁舎総務企画課、朝日地域各コミセン事務局の皆様のご協力のもと、生徒も含め約120名の皆様にご参加・ご参観いただきました。

本校では、ご存じの通り、総合的な学習の時間に「朝日元気プロジェクト」と題し、3年間を通して探究活動を行っていて、3年生は地域課題解決のための提言をゴールとして、各自が設定したテーマについてこれまで学んできました。しかし、これまでは参観日等での成果発表にとどまっていたため、せっかく考えた提言をもっと多くの方々に見ていただきたいと感じておりました。そこで、今回、東北公益文科大学大学院の皆様にお力添えをいただき、保護者の方だけでなく、外部の方々にも3年生の学習成果を見ていただくとともに、提言実現に向けたシミュレーション的な話し合いを大人も交えて行うことで、3年生にとって学習成果がより現実的に、そして実現可能性を身近なものに感じることができるようになることで自分たちが探究した地域課題の解決が「自分ごと」に感じられ、この「朝日元気プロジェクト」のねらいの一つでもある地元愛、地域貢献意識の醸成に繋がたい、と考え「地域語り合い」の中で3年生の学習発表を実施していただくこととしました。

また、1、2年生の学習発表会の講評でもお話ししたように、朝日地域はもとより、全国的、世界的に少子高齢化等による労働力不足が予測される、君たちが大人になったときの社会状況で必要とされる「人間基礎力」のベースとなる力を育む意味でも、この「地域語り合い」の場でプレゼンすること、そして自分たちのプレゼン内容について「対話」することはとても有意義なものになる、と確信していました。



当日は、3年生の各グループが考えた地域課題に対する解決策を「実現するにはどうしたらよいか」、「話し合った課題解決のため、将来の自分は何ができるのか」を16のグループごと、自由に話し合いました。

「地域語り合い」のあと、プレゼンした3年生の感想の一部を紹介します。

○自分たちに足りなかったところを知ることができてよかった。自分たちの意見が否定されることなく、詳しく聞いてもらえたので、思っていたこと、考えていたことをたくさん話せてすごく楽しかったです!本当に実現したいので、自分たちにできることを精一杯取り組んでいきたいです。

○大人の皆さんが自分たちの案に対してたくさん質問してくれて、自分たちも考えていなかったことも具体的に考えることができた。うなずいて聞いたり共感したりしてくれて発表しやすかった

○今まではふわふわした提案だったけど、話し合いの場で詳しく話し、理解し、意見を出し合えたことで、より確かな提案にできそうになったのでよかった。

○解決策を具体化するためにはどうしたらいいか、自分一人では思いつかなかった案や、それを実行するうえで自分にできることなどがはっきりわかることができてよかった。



などの意見がありました。回答していただいた3年生のほぼ全員から、たくさんの方と交流できて楽しかった、との感想をいただきました。

1, 2年生の感想も一部ご紹介します。

○始めは意見を言えなかったけれど、後半からは人の意見を聞き、さらにプラスに考えて「もっとこうすれば朝日はよくなるのではないか」と考えたことを発言できて、満足のいく「語り合い」ができた。地域の大人の人と関わることができて楽しかった。もっと地域の人と話がしたい。

○なかなか地域の人と話す機会がなく、地域のことを考えても、それを実際に「伝える」まではしていなかったから今回の「語り合い」は自分にとって本当にいい時間になったし、お互いの意見をたくさん交換できてとても勉強になったし、楽しかった!また、実際に地域の人意見を聴けて、将来市役所とかで働いたりしたときに、しっかり活用して、朝日をもっと明るく、よりよい地域にしたい!

「地域語り合い」後に生徒の皆さんには、東北公益文科大学の武田先生からのご依頼でアンケートにご協力いただきました。

Q:様々な職種・住民の人と出会い、交流することができたか⇒83%の生徒が「できた」と回答

Q:「自分ごと」として具体的に何ができるか、考えることができたか⇒80%の生徒が「できた」と回答

Q:自分の意見等を他の参加者に「受け止めてもらった」「理解してもらった」と思ったか⇒83%が「思った」と回答



多くの生徒の皆さんに、意欲的、主体的に「語り合い」に参加し姿を見ることができてとてもうれしく思いました。秋山自身、この「地域語り合い」のねらいと考えていたことも達成できたのではないかと感じました。

ただし、次のステップとして考えていること、期待していることがあります。

それは、武田先生のアンケートのもう一つの質問に関連することです。

アンケート最後の質問は「今後、中学生の皆さんが地域の中で取り組みたいこと、挑戦してみたいことについて多

様な住民と話し合う場をつくることを計画しています。そのような対話と交流の場に参加してみたいと思いますか?」という質問には、33%の生徒が「できるだけ参加したい」、64%の生徒が「都合が合えば参加したい」と回答してくれました。このことに「参加する」という、いわば大人と一緒に実際に地域を動かす、ちょっと大げさに言えば社会を動かす経験は、この先必ず役に立つ場面がくると確信しています。

これまで、地区運動会や夏休みのスマホ教室など、実は君たちが大人とともに「地域を動かす」「社会を動かす」機会、地域に貢献するチャンスはあったんです。今後この件についてアナウンスがあったら、都合がつくときでいいから、「行動」してくれることを期待します。それが今回の目標のひとつでもあったんです。